



# フランス史から考える政治の境界

経済学部 経済学科 准教授 湯浅翔馬

## 研究シーズの概要

政治的な左／右はどのように決まるのでしょうか。たとえば現代日本では政治的な立場は、リベラル（左派）／保守（右派）と大別されますが、私が専門とする時代のフランスではリベラル（libéral）は右派に位置付けられます。また昔は左派だった勢力が、のちに右派になることもあります。実際、左／右の境界はその国や地域の政治的文脈や文化、時代によって様々なのです。

こうした左／右の境界がいかに変化するかという問題意識のもと、100年から150年くらい前のフランス共和国の政治史を研究しています。とくに右派勢力の歴史を専門とするのですが、目下の具体的な研究対象はナポレオン支持者です。ナポレオンと聞けば、皇帝ナポレオン1世のことかと思う人が多いかと思いますが、私の関心は、彼の甥のナポレオン3世が樹立した第二帝政が瓦解して、新たに共和国が出来上がった時代に、三度目の帝政を建設しようとした人々の歴史です。彼らは共和政（君主のいない政体で、当時はデモクラシーと同義語として使用されました）に反対して、帝政という君主政を支持したわけですから、「右派」に位置付けられます。しかし、詳しくは申し上げられませんが、一人ひとりの帝政再建論の中身をよく見てみると「保守的」だったり、「民主的」だったり、さらには「社会主義的」だったりするのが、興味深いところです。こうした多様な広がりを持つ帝政支持者たちが、帝政再建の夢を諦め、共和政を受け入れたうえで強力な大統領制への変革を求める人々へと姿を変え、ナショナリストと呼ばれた新しい右派勢力へと接近していきました。この過程を通じて、フランスにおける右派勢力の変容を捉えることで、左／右の境界とその変化を考えるヒントが得られるのではないかと考えています。

【利用が見込まれる分野】 教育、政治参加、多文化共生

## 研究者プロフィール

湯浅翔馬 / ユアサショウマ



メールアドレス	yuasa.shoma@kagawa-u.ac.jp
所属学部等	経済学部 経済学科
職位	准教授
学位	博士（文学）
研究キーワード	政治史、ナショナリズム、ドレフェス事件、

問い合わせ番号：EC-22-007

本研究に関するお問い合わせは、香川大学産学連携・知的財産センターまで  
 直通電話番号：087-832-1672 メールアドレス：ccip-c@kagawa-u.ac.jp